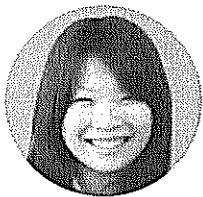


「成長の場としての企業のあり方」

II部 優良賞

まなみ 佐藤
さとう まなみ
佐藤 愛美
(エイテックス)



いつまでも食欲に学び続け、成長を続けたい。中小企業であれば、それを実現できるような気がしたのだ。

大学時代、飲食店で三年半ほど接客のアルバイトをしていた。大きな駅の中にあり、時期や時間帯によっては非常に混雑する、にぎやかな店であった。就職活動の時期になり、どのような道に進むのが良いのか迷っていたある日、アルバイト先の店長がこう言った。

「大企業では歯車の一つになるばかりで、決まった仕事しかできない。だが中小企業ならできる仕事の範囲が広く、自分が活躍していることを実感できて成長できる。」

最初は知名度のある大企業に就職したいという思いを持っていたが、その言葉によって中小企業で働くほうが自分にとっていいのではないかと考えたのである。

私は基本的に、意義の感じられないことはやりたくないという人間だ。

実際に社会人になって

まだ三カ月と少しであり、まだまだ「働いていない」と言えるような身ではない。しかし、この短期間で非常に多くのことを学ぶことができていて、自分の求めることを実践できる場として非常に満足しており、毎日有意義に過ごすことができていた。

大学時代のアルバイトの話に戻ろう。アルバイト先は従業員が三〇人程度で、また従業員の入替わりが少なかつたので、全員の顔や性格と、どんなふうに住事をするのかといった特性をある程度把握することができていた。私はアルバイト先が大好きで、その当時は漠然と「他の従業員が皆いい人だから」と思っていたが、会社というものを少し知った今になると、また違った理由があったのではないかとと思う。アルバイト歴が

長くなっていくにつれて、一人ではできる仕事が増えたこと、周りから頼られるようになったことが理由だと考えた。

私のアルバイト先はとくにマニュアル等はなく、「自分がされて気持ちの良い接客」をするように言われていた。しかし最初のうちは何もわからず、先輩から指示されたことをそのままやってみるとしかなかった。だが、だんだんと慣れてきて、お客様の求め

ることを満たすのはもちろん、それ以上の接客もできるようになった。忙しい時間帯であってもお客様の入り方や料理の出るタイミング、スタッフが手

う。これではどの部分を協力したらよいかよくわからず、チームワークを發揮できないだろう。

働いている全員が常に学び、成長することによって会社も成長するだろう。自分の仕事以外についても理解するよう努めたり、物事に対して「なぜそうなるのか」と考えたりすることは自らの成長にとって非常に重要であると考え、企業は、それが可能な環境を作り出していくことが必要である。具体的には、研修制度を充実させたり、各部署が独立しすぎずにほかの部署とも関わり合い、横断的に物事を考えることができるような仕組みをつくること、望ましいのではないだろうか。

横断的に物事を考える環境を

自然料理の注文を受けたりという、どうしようもない状況になることがしばしばあった。それでも声を上げたり、目配せしたりすることによって他のスタッフが助けてくれた。だから、店が混雑している日でも安心して仕事をすることができた。

これは先に述べたように、従業員全員を知っている、性格や仕事をするときの特性をある程度認識できていたから成り得たことではないだろう。

また、チームワークを生み出すような環境の整備も必要であろう。冒頭に述べたアルバイト先の店長の言葉を考えると、一人ひとりに与えられた仕事の幅が広く、責任も大きいと思われる中小企業においては、重要となってくるのはチームワークである。一人ではできないような仕事でも、何人かで自分の得意分野でカバーしあえばこなすことが可能だろう。これに対して、先に述べた部署横断的な人員配置が必要だろう。

私は、これらを満たすような企業でいきいきと働き、今後の長い社会人としての人生ですと成長していきたい。そして、いつか社会に貢献できる人になりたい。